

秋田県仙北地方の曲家の変容の研究

月 館 敏 栄*

A Study on the Change of MAGARIYA (old farm-houar) in The SENBOKU District, AKITA Prectue

Toshiei TSUKIDATE

Abstract

In The SENBOKU Area, Northern part of The YOKOTE Basin and its surrounding area, L-shaped houses are remained. Theses L-shaped houses are similar to the so-called “NANBUMAGARIYA” and “CHYUMONZUKURI”. I made the chronicle of these L-shaped houses and compared L-shaped houses of plan and construction system with “NANBUMAGARIYA” and “CHYUMONZUKURI”.

Consequently, I have reached the conclusion that at first “NANBUMAGARIYA” wase spreaded, and after “CHYUMONZUKURI” was invaded in The “SENBOKU” Area.

はじめに

秋田県仙北地方は横手盆地北半部から田沢湖附近の山間部にかけた積雪1m余りの多雪地域である。当地方にはL字型の平面を持つ茅葺の農家が存在し、日本海側に分布する曲り先端の妻側出入口を持つ中門造りとは異なり、馬産地である南部地方の曲家に近く、出入口が曲りの接合部にあることが知られている。

仙北地方の民家については石原憲治氏が田沢湖町生保内地区の曲家を報告したことが最初と思われ、岩手県の曲家と類似する原型の間取りが存在することを指摘し、「発生的に隣接する岩手県と同じ系統に属することが明である」と述べている¹⁾。戦後は、蔵田周忠氏(1952)、川島宙次氏(1969)、秋田県教育委員会の「秋田県の民家」(1973)、秋田県郷土建築研究会の「秋田の民家」(1982)などの研究により、仙北地方の曲家に関する知見が蓄積されてきたが、当地方

の曲家が中門造り、南部の曲家と形態的構法的関連性、分布圏の関係などに関しては曖昧なままであった²⁾。杉浦直氏は曲家の厩部分に着目して類型化を行ない、正確な分布図を作成することにより、中門造りと曲家の分布状況を示し

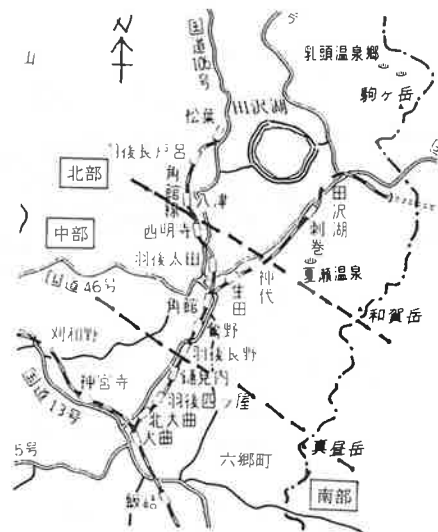


図-1 仙北地方の位置

平成元年 10 月 31 日受理

* 建築工学科助教授